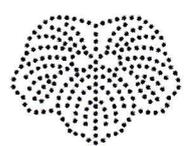


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



リゅうま伝

76号

2026年3月26日
高野 亮馬

「ビリギヤル」

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」とはよく言ったもので、受験等の苦しみをおぼえるのはア、という間です。ね。

一生懸命勉強してギリギリ希望校に入学した我が娘も高校が楽しくて仕方ないようで、日々遊び回っています。

成績が落ちてもノホホンとしている娘に喝を入れるべく、「ビリギヤル」を講入。これ見よがしにリビングに配置。ところが、これが面白いのです。私の方がハマってしまいました(笑)。初版は20年のミリオンセラー。学年ビリのギヤルが慶応大学へ現役合格する話ですが、単なる人生逆転劇ではないのです。信じることの尊さや人間の可能性を感じさせてくれる物語

なのです。それも竹笑いととも。冒頭からビリギヤルこと、さやかちゃんを描いた日本地図に私は爆笑しました。

「こんなバカが日本の高校にいるとは...」実に見事なバカ、パグでメッ、メッ笑えます。それが坪田先生の指導で見事に亦々ゆるのです。

この坪田先生のスゴイのは、①さやかちゃんに純粋に興味を持つている。

②さやかちゃんをダメにした過去の全てを知っている。それは学校の環境だけでなく家庭環境まで。それも両親の生い立ちまで押さえているのです。

③なんでここまでバカなのか、その理由を突きつめ、適切な指導を行っている。これ、子どもの受験に限った

ことではなく、企業内での従業員教育やスポーツの指導にも横展開できる内容です。人は心の底から信じて任せてもらうと生まれ変わるのです

ね。(勿論、さやかちゃんのように素直に実践するということのもポイントですが。)

そうやって受験日が近づくと、さやかちゃんは家族だけでなく、ギャン仲間や学校からも応援されるようになります。またそれをプレッシャーに感じてゆくのです。

それを見た坪田先生は日記を書いてストレスを発散するよう提案。その日記が写真で紹介されています。辛うじて読めるくらい写りの悪い写真ですが、これがスゴイ!!

「みんな応援してくれる分、さやかは強くなる。でも、これかな。その分、重いなにかが、さかのかの上の、かるの」

そして次のように結んでいくのです。受験を通じて人と

しても成長する様子が圧巻です。

「勉強しすぎて死んだ人はいない。何かやりすぎて、死なないのって勉強だけじゃない?」
「うーん、人間って勉強しても勉強しても、足りない、ってことだよな?」



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikei.com> x-11 fp.takano@gmail.com